地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み（三石地域）

●出前授業の継続（継続事業）

（1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan）

地域MVにおける取組の位置付け

【地域の将来像】 「人寄ればよろこんぶ」を基調に、コンブなどの地域の水産物を活用して、漁村地域を支える人材の育成、地域水産物を活用した都市との交流など、人と人とのつながりがもてる事業の展開を目指している。

【主な取組】 ⑴出前授業の継続　短　　期：年代別の授業メニューの検討、実行
中・長期：講師の後継者育成、事業の継続

取組場所

取組内容に関連する実施の現状と課題

【　現　状　】 小・中・高・大学で出前授業及び料理講座等を実施

【　課　題　】 後継者、担い手不足

取組による効果（数値目標）

【数値目標】 ⑴出前授業の継続　町内小・中学校での出前授業実施　すくなくとも年３校

（2）取組内容・実施体制（Do）

組内容、方法、手順、実施体制

⑴出前授業の継続

【取組内容】 各種団体や学校との日程や段取り等の調整のほか、各種事前準備のうえ、漁業に関する座学や体験学習、料理講座などを実施している。

【方法・手順】
- 座　　学　～　コンブ漁や刺し網漁など地元における漁法などについてスライドや動画で説明
- 体験学習　～　地場産鮮魚のふれあい体験や、コンブ漁の漁具を扱う体験
- レクリエーション　～　漁業に関する〇・×クイズ
- 料理講座　～　地場産コンブや鮮魚を使った調理実習

※令和７年度実績

- **令和７年10月６日（月）静内農業高等学校　１年生 49 人**
  - ・座　　学「町の漁業、コンブ漁、魚礁・産卵礁」
  - ・体験学習「コンブ漁体験、漁具体験」
  - ・PR 活動「日高昆布の配布」
- **令和７年11月４日（火）三石中学校　３年生 20 人**
  - ・座　　学「町の漁業、コンブ漁」
  - ・体験学習「コンブ漁体験、漁具体験」
  - ・料理講座「ガリ糖昆づくり、みそ汁味くらべ」
  - ・PR 活動「日高昆布の配布」
- **令和７年11月７日（土）～８日（日）北海道文教大学(栄養教育論受講学生)１年生 16 人**
  初の試みとして、宿泊を伴う漁業体験事業を実施した。
  - ・座　　学「地場産魚種、漁業の仕事」
  - ・体験学習「網外し体験、鮮魚ふれあい体験、漁港早朝散歩」
  - ・施設見学等「屋根付き岸壁・荷捌所・製氷貯氷施設、定置網等漁業の水揚げ」
  - ・料理講座「地場産魚種を使用した調理実習」
  - ・PR 活動「日高昆布の配布」
- **令和７年11月18日（火）三石小学校　５年生 20 人**
  - ・座　　学「コンブ漁」
  - ・体験学習「鮮魚ふれあい体験、コンブ漁体験」
  - ・料理講座「チョこんぶづくり」
  - ・レクリエーション「漁業に関するクイズ」
  - ・PR 活動「日高昆布の配布」
- **令和８年１月27日（火）高静小学校(６年生 70 人)**
  - ・座　　学「町の漁業、定置網漁業」
  - ・体験学習「定置網漁模型見学、漁具ふれあい体験」
  - ・PR 活動「日高昆布の配布」

関連資料【取組の様子】

⑴出前授業の様子

- **令和７年10月６日（月）静内農業高等学校　１年生 49 人**

- **令和７年11月４日（火）三石中学校　３年生 20 人**

	【実施体制】　ひだか漁協三石昆布組合を中心に、同漁協三石女性部、日高地区水産技術普及指導所静内支所などの協力のもと事業を展開している。 ● 主な役割 ・ひだか漁業協同組合三石昆布組合（座学、体験学習） ・ひだか漁業協同組合三石女性部（料理講座） ・ひだか漁業協同組合三石支所（施設見学、PR 活動） ・日高地区水産技術普及指導所静内支所（レクリエーション、体験学習） ・北海道日高振興局産業振興部水産課（当日補助） ・三石地域マリンビジョン協議会（学校や関係機関、関係者との各種調整のほか、座学や体験学習などの準備等）
（3）効果項目に対する評価（Check）	
数値目標の達成度評価	⑴出前授業の継続　目標達成 〇数値目標：すくなくとも３校で実施 〇実　　績：５校で実施 大学生向けの漁業体験事業は、初の試みとして宿泊を伴う形式で実施したが、参加学生らの表情や感想などから、町の印象を深めることができ、将来的な来訪も見込める一定の成果はあったと考える。出前授業の継続等により北海道マリンビジョンコンテスト 2025 で奨励賞を受賞。
反省点	⑴出前授業の継続　〇大学生向けの漁業体験事業は、本年度より宿泊を伴う形式で実施し、参加した学生からは大変好評であったと認識している。ただし、改善点として、今年度、網外し体験において学生らの手際も良く予定より早く終了してしまったほか、天候や時化などにより予定通り行程が進まないことも想定されるため、予備行程を二重三重に計画するほか、関係者や従事者の役割分担をより明確にする必要がある。
（4）取組の改善措置（Action）	
取組内容の改善点	⑴出前授業の継続　〇数値目標は達成しているものの、これまで通り、関係者が参集し、連携を密にして、授業内容の課題や改善点を見つけてブラッシュアップをしていく。今年度、初の試みとなった宿泊を伴う大学生向けの漁業体験事業は、これまで取り組んできた出前授業の経験則や、今年度の反省点を生かし、更なる磨きをかけていきたい。
取組の実施に必要なもの	関係機関・関係者等の事業等への理解と協力

◎ 令和７年 11 月７～８日（土・日）北海道文教大学１年生 16 人

◎ 令和７年 11 月 18 日（火）三石小学校　５年生 20 人

その他	関連記事（新聞報道等）

○R07.11.14 日高報知新聞

漁業への理解深める

三石地域マリンビジョン協議会

道文教大の学生が調理実習

慣れた手つきで魚をさばく学生たち

除雪車の働き実演

磯田組 平取小で働く自動車見学説明会

夢を持つ、あきらめない

荻伏小 元Jリーグ日選手の吉田順省さんが出前授業

○R07.12.03_北海道新聞

三石の魚で浜料理挑戦 道文教大生

ひだか漁協女性部のメンバーから浜の料理を学ぶ学生たち

○R07.11.09.AM7：30_ＮＨＫ朝のニュースで放送

○当協議会 SNS（FB５回・IG４回）で関連記事を投稿

● 令和８年１月 27 日（火）高静小学校　６年生 70 人

●漁港めしの開発（新規事業）

（1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan）		関連資料【取組の様子】
地域MVにおける取組の位置付け	【地域の将来像】 「人寄ればよろこんぶ」を基調に、コンブなどの地域の水産物を活用して、漁村地域の支える人材の育成、地域水産物を活用した都市との交流など、人と人とのつながりがもてる事業の展開を目指している。 【主な取組】 ⑴漁港めしの開発　短　　期：漁港メシレシピの開発・提供 中・長期：協力店舗による提供、ＰＲ活動	取組場所
取組内容に関連する実施の現状と課題	【　現　状　】 低・未利用魚を使い、地元高校生による独創性のある魚料理のレシピ考案 【　課　題　】 資源量減少による漁業者所得の減少	
取組による効果（数値目標）	【数値目標】 ⑴漁港めしの開発　町内協力店舗による提供　すくなくとも３店舗	
（2）取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	⑴漁港めしの開発 【取組内容】 これまで数多くのグルメコンテストで受賞歴のある静内農業高等学校食品科学科の生徒による独創性ある新たな視点での低・未利用魚を使った料理レシピを開発し、町内企業（宿泊施設や飲食店）でその料理を提供する。期待する効果として、地場産の低・未利用魚の付加価値化による漁業者の所得向上や安定化のほか、交流人口の流入による地場水産物の消費拡大と新たな食の創出による地域経済の活性化を期待する。 【方法・手順】 令和４年度から新ひだか町(まちづくり推進課)と静内農業高等学校で、町内企業と生徒が一緒に商品開発に取り組む「静農ブランド」事業を展開している。新たに今年度は、静内農業高等学校、新ひだか町(まちづくり推進課)、三石地域マリンビジョン協議会との共同企画として、関係機関等の協力のもと、地場産の低・未利用魚を活用した料理レシピの開発を取り組み、来年度以降に町内の宿泊施設や飲食店などでの「静農ブランド＆漁港めし」レシピ料理の提供を目指す。	⑴漁港めしの開発 ● 取組の様子　※地場産魚提供、試作、生徒プレゼンなど

※令和７年度実績　５月　　ひだか漁業協同組合、町（まちづくり推進課）、当協議会で、低・未利用魚の情報交換を行い、平均単価100 円未満の魚種 26 魚種を選定し、静内農業高等学校に情報を提供したほか、三石地域の企業（宿泊施設や飲食店）を訪問し、今後の取組について説明した。

６～７月　　同校食品科学科２年生(生徒)が 39 レシピを考案し、その中から生徒らが協議のうえ４案に絞り込む。

①からあげ（カジカ、カスベ、ソイ、タラ）

カジカ（コチュジャン）

ソイ（米粉･醤油）

カスベ（塩）

タラ（梅しそ）

②豪快和風
あんかけカツ丼
（イシガレイ）

③サメそぼろ丼
（カトザメ、
アブラザメ）

④アカガレイの
炊き込みご飯

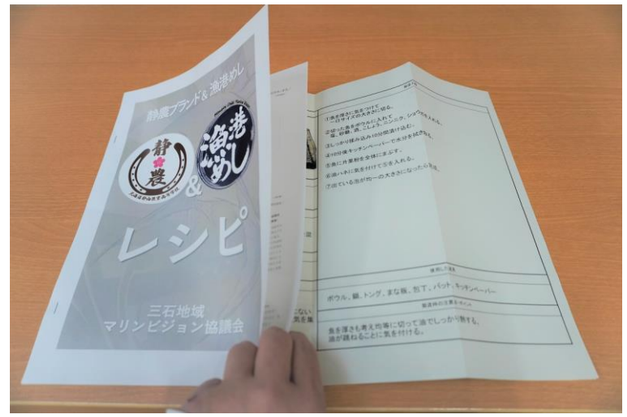
８～12 月　　生徒らは、４班に分かれて、授業や放課後の時間などを活用し試作を重ね、新ひだか町静農ブランド開発促進プロジェクト(町まちづくり推進課）主催による関係機関（静内農業高等学校、町、農業協同組合、漁業協同組合、商工会、観光協会、町内企業、関係団体）を招いた試食会等を３回（10 月、11 月、12 月）行ったほか、三石地域の企業（宿泊施設や飲食店）を訪問し、試食会等への参加を呼びかけた。
R7.10.3　関係機関を招いた試作見学・試食会
R7.11.7　関係機関を招いた試食会
R7.12.7　関係機関を招いた試食会及び企業へのプレゼン

１～３月　　視覚情報として記憶に残りやすいことから漁港めしのロゴを作成した。併せて、提供するレシピ料理を４品の中から「からあげ」に選定し、名称も生徒考案による「からっと 魚(ギョ)－テン揚げ」とした。
提供企業９社を訪問しレシピ料理提供について最終確認を行ったうえ、共通認識を図るためのガイドライン（基本事項）を作成しレシピ本とともに配付した。
広報宣伝活動のため、ポスターをや卓上ポップなどを作成したほか、静内農業高校教諭と協力してのぼり旗や消費促進のための配付シールのデザインを行った。

静農ブランドのロゴ →　　←作成した漁港めしのロゴ

【 実 施 体 制 】　静内農業高等学校、町(まちづくり推進課)、三石地域マリンビジョン協議会との共同企画として、関係機関等の協力のもと事業を展開している。
- 主な役割
  - ・静内農業高等学校：レシピ開発、試食会準備等
  - ・町(まちづくり推進課)：関係機関との連絡調整、試食会準備・開催等
  - ・三石地域マリンビジョン協議会：学校との魚種提供の連絡調整、町内企業への訪問(提供依頼)、広報宣伝活動等

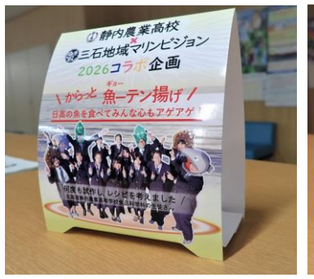
- レシピ本の作成　※提供企業配付用



- ポスターの作成

（3）効果項目に対する評価（Check）

数値目標の達成度評価	漁港めしの開発　〇数値目標：すくなくとも３店舗で提供 目標達成　〇実　　績：町内企業９社（飲食店６社、宿泊施設３社）で提供。

		● 店内用卓上ポップの作成  （表） （裏） ● のぼり旗と配付シールのデザイン(案) ※消費促進策 A案 B案 C案
反省点	漁港めしの開発	○高校生の考えや思いを企業に伝える機会の構築。高校生は授業があり、企業は飲食経営しているため、日中に接点を持つ機会を設けることが難しい状況にあった。 ○効果的な宣伝広報活動の実施。
（4）取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	漁港めしの開発	○数値目標は達成しているものの、協力企業と高校生との接点を設ける機会を町（まちづくり推進課）や商工会と連携し、今後において方策を検討していきたい。 ○ポップやのぼり、シールなどを作成し、効果的な広報宣伝活動を展開するほか、各提供企業の「静農ブランド＆漁港めし（からっと 魚－テン揚げ）をＳＮＳ等で周知する。
取組の実施に必要なもの	関係機関・関係者等の事業等への理解と協力	
その他	関連記事（新聞報道等）　○当協議会 SNS（FB６回・IG２回）で関連記事を投稿。	